

欧州における都市景観照明デザインの動向

－ 青色光による視覚的デザイン効果 －

日大生産工 ○山家 哲雄

1. はじめに

近年、地球環境保全対策の観点から発光ダイオード(LED)が、次世代の照明用光源として世界的に脚光を浴びている。これらの背景の基、間接照明の本場であり、キャンドル文化が根付いている欧州各都市の都市景観照明デザインのフィールドにおいて、青色光が多用されるようになってきた。

本稿では、古い歴史的な街並みを今でも多く残し、その夜間景観(夜景)デザインが特に美しいといわれる欧州各国における都市景観照明(エクステリア、インテリア、店舗照明、演出照明、道路・交通照明など)の最新動向について調査結果を報告すると共に、青色光による照明デザイン上の視覚的效果について考察した。

2. 光の原風景

人類に共通する「光の原風景」を考察すると、

- ・キャンプファイヤーの炎
- ・キャンドルライト
- ・ガス灯のあかり

など、目を閉じるとよみがえる、子供の頃に見た懐かしいあかりの記憶にたどり着き、不思議と心を落ち着かせてくれる「生の炎」に帰着する。(図1参照)

人類共通の光文化(光の原風景)として、「生の炎」が、人類学的、考古学的な考察を重ねるまでもなく、あらゆる国や文化の「分母」として根底に横たわっているといっても過言ではない。

「分子」としての「光の概念(光文化)」は、個人の成長過程で、生活環境の文化、後天的な体験や教養の影響を多分に受けて構築され则认为る。

光文化の形成に影響し、光の概念を表現しているものとして、

- ・気候風土
- ・宗教哲学
- ・空間認識
- ・芸術作品
- ・伝統的照明器具
- ・祝祭行事
- ・光の象徴性

などが挙げられる。これらは、最も如実に各国の「光文化」に影響している。(図2、図3参照)

3. 欧州の光文化

欧州の文明(キリスト教文化)の中で、光は、最初に「神の光」であった。



図1 光の原風景(キャンドルライト)



図2 芸術作品の中の光の表現



図3 祝祭行事と光

Trend of the Urban Lightscape Designs in Europe
Visual effect on design by the blue light
Tetsuo YAMAYA

次に、光は宮廷文化の中で、より明確に光文化としての地位を確立し、権力そして富と栄光の誇示のために用いられた。それらは、キャンドルが生る炎のまま点として、もしくはその羅列としての点線として専ら配置されており、非常に強いコントラストからなるグラフィカルな効果を生み出した。

その結果として、

- ・太陽信仰
- ・キャンドルのあかり(低色温度の光色)
- ・ハロゲンランプ(白熱電球)
- ・間接照明(環境光、ベース照明)
- ・多灯分散(局部照明)
- ・グラフィカルで高コントラスト(ドラマチックな表現)

と言う、現在の欧州固有の光文化が形成された。

4. 都市景観照明デザインの動向

次世代光源として世界的に注目を浴びている LED 照明は、わが国を柱に独自のデジタルカラーライティング技術を展開し、欧州の都市景観照明デザインの分野においても新しいあかり文化を築いている。

2055 年以降、欧州各国の建築家や照明デザイナーらのデザインによる LED を活用した新しい空間演出や照明デザインのパリエーションには大変興味深い提案が多く、屋外照明(エクステリア)、店舗照明、演出照明、道路・交通照明、その他と多岐に及んでいる。

すなわち、欧州の新しい都市景観照明文化(トレンド)として、「青色光を適所に用いた照明デザイン手法」が挙げられる。

その都市景観照明デザインの創出手法は、

- ・点発光の輝き、
- ・線発光の幾何学的造形美、
- ・面発光の面積的造形美、
- ・光色のグラデーション

を意識したタイプに分けられる。

光の三次元的デザイン(空間軸もしくは時間軸を持つ新しいデザインも生まれている)は、従来からの高圧ナトリウムランプによる、オレンジ色、黄色の色光によるライトアップ(投光照明)が主流である照明デザインの中で、そのファンタスティックな照明演出の妙味は、グラフィカルであり、そしてドラマチックな表現であるため、一際目立っている。(図4から図7参照)

5. おわりに

照明は、今進化の時を迎えており、“暮らしのあかり/街あかり”は、新しい時代への幕開けである。新しい光が益々多様になり、今迄にないニーズも生まれている。こうした背景の基、地球環境への対応も、新しい照明の普及に拍車をかけている。

照明技術が成熟した昨今、われわれは照明を技術的な一側面からだけ狭く捉えるのではなく、「後世に残せる21世紀のあかり文化」として学際的に、業際的になど等、照明を様々な視点から多角的に広く捉えた応用研究を心掛けなければならないものと考ええる。

《参考文献》

- [1] 山家哲雄:「LED 照明の新展開:東西あかり文化と照明デザインの新しいトレンド」, 照明学会東京支部技術セミナー資料, pp.3-11 (2005)



図4 広場のイルミネーション (パリ)



図5 エッフェル塔のライトアップ (パリ)

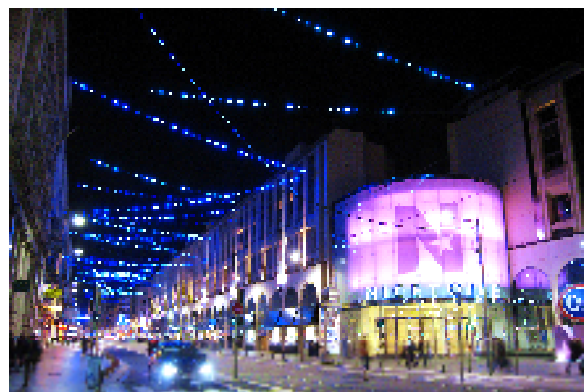


図6 街路のイルミネーション (ニース)

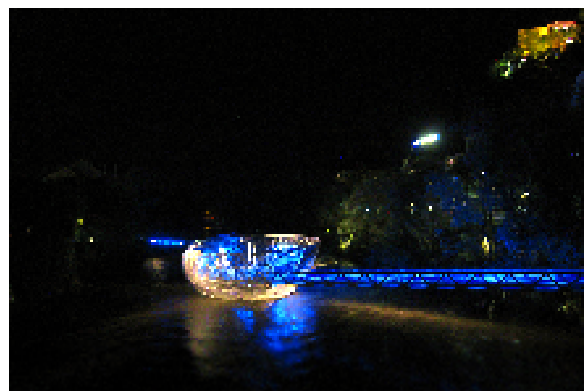


図7 橋梁のライトアップ (グラーツ)